

ルデレはラテン語で、遊ぶ、演奏する、語る、楽しむなどを意味することばです。
ギターを手に心を語り、クリエイティブに音楽表現を楽しむ、そんな想いが込められています。

ギターオーケストラ の世界

ご挨拶

暑さも徐々にやわらぎ夏が終わりに近づいてきて来ましたね。今年の夏は感染症への対応に加えて雨続きの日々も多く、いわゆる「お家時間」が長かったかと思いますが、皆様はひと夏を振り返ってどのようなお気持ちでいらっしゃるでしょうか？

私にとって今夏は長崎ギター音楽院の活動に専念するようになってから1年の節目を迎えた時期でしたので、振り返りながら考えることが多くありました。その内容はもちろん具体的な運営方法のことや細かな教え方のことが主なのですが、同時にその原点になる「音楽の楽しさとは・・・？」という問いについて考えさせられることが多かったのです。というのも、ギターはまさに楽しさの宝庫で、その楽しみはさまざまな方向に広がっているのですが、それがよく知られているかというところではありません。特に今日のクラシック音楽教育の多くは、アドリブや弾き語りをほとんど取り上げていなかったりなどという偏りがあって、どちらかというと楽しさというよりも難しいことというイメージが先行してしまっていることも多いと感じます。しかしそれはもったいないことで、音楽の楽しみはもっと豊かで多様なんだというのを広めてゆければ、各人の楽しみはもっと大きくなりギターとの付き合いもさらに充実したものになると思います。

難しい曲に挑戦しスキルアップする楽しさがあれば、シンプルな旋律や伴奏がよい感じに響くよう磨きをかけていく楽しさもある。楽譜を読める

ようになっていろいろな曲をさらっていく楽しみもあれば、勘をはたらかせながら耳コピで曲を弾いてみる楽しみもある。それから楽譜から弾くだけでなくアドリブをしたり曲を作ったりするクリエイティブな楽しみや、コード理論などを学んで音楽の仕組みにふれる知的な楽しみもとても豊かなものです。また、弾き語りをすれば歌う楽しさだけでなく歌詞の世界への興味もわっと広がります（これはなにも人前で堂々と歌うことを言っているわけではありません、自分だけのためにこっそり歌うだけでも全然良いのです）。他にも、曲への取り組みでいえば曲を1つの通過点にせず覚えて末永く弾けるレパートリーにすること、そうして「持ち曲」を増やしていく楽しみも音楽ライフを充実させるためにとても大切なものです。

ギターの楽しみ方はまだまだたくさんありますが、教える側としてはそれらをバランスよく紹介しつつ、皆さんが楽しみながら上達していけるよう最大限の工夫をしていきたいと思っています。内容によってはおそらく、はじめのうち自分には無理そうだと距離を感じてしまうものもあると思いますが、手順をふんで丁寧にステップアップしていけば決してそんなことはありませんので、みなさんも是非リラックスした気持ちで一緒にトライしてみてください。

特集

ギターオーケストラの世界

なぜギターでオーケストラを？

長崎ギターオーケストラの前身は、1965年に発足した「長崎スペインギターアンサンブル」。その後、1971年に「長崎ギター合奏団」、2020年に「長崎ギターオーケストラ」と改称して今日にいたります。なぜギターで交響曲を弾くのかということですが、長崎ギター音楽院の前院長・山下亨には、「ギターを愛する人々と共に、スケールの大きな音楽を奏でたい」、そして、「ギターを通して音楽を学ぶ人々が、偉大な芸術作品に自らの音で触れる機会を創りたい」という想いがあったと思います。というのも、ギターはポピュラーからクラシック、フォルクローレなど、ジャンルを超えて活躍する楽器ですが、普通に弾いているだけではベートーヴェンやモーツァルト、チャイコフスキーなどといったクラシックの著名な作曲家の作品とはほとんど縁がありません。ただ、それはとてももったいないことだと、ギターの表現力を存分に活かして豊かなアンサンブル演奏を楽しもうじゃないかという思いが、ギターオーケストラ活動の原動力になっています。そして、ギターはまさにたくさんの音色が出せて奏法も多様な楽器なので、工夫次第で原曲のすばらしさを味わいながら、また違った良さ、ギターオーケストラならではの魅力も出すことができるという信念でやっています。

また、普通のオーケストラならば楽器をひとつとおり揃え、それを弾けるようになるのもなかなか大変なことなのですが、それに比べてギターは親しみやすく手頃な楽器ですので、そういう意味でも交響曲に親しむひとつの形としてのギターオーケストラがもっと広まると良いのかなと思います。特に長崎ギターオーケストラではオリジナルの楽譜を作ってやっているのので、柔軟な編曲力を生かしてやさしいパートを設けたりしながら、より多くの人に演奏に参加する楽しさを味わってもらえたらと思っています。



▲長崎スペインギターアンサンブル（1970年の演奏会より。前長崎ギター音楽院院長・山下亨指揮。ソリスト（指揮者の左）は、現在の長崎ギターオーケストラ・コンサートマスターの山口修さん。）



▲長崎ギターオーケストラ

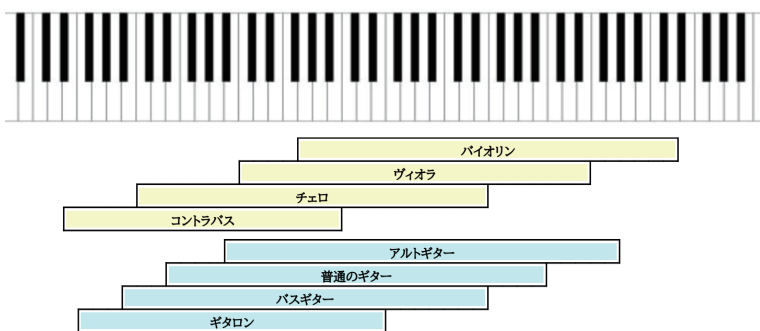
長崎ギターオーケストラが使っている楽器

ギターオーケストラでは、通常のオーケストラの多様な音階をカバーする為、「普通のギター」以外にも様々なギターを使用します。



▲左から：アルトギター、普通のギター、バスギター、ギタロン

- ・**アルトギター**・・・小型のギターで、普通のギターより5度高く響きます。
- ・**バスギター**・・・低音パート用の大型のギターで、普通のギターより4度低く調律されています。チェロの最低音より1つ低い音まで出すことができます。
- ・**ギタロン**・・・太い弦、大きな共鳴胴、そして、なんといってもフレットがないのが特徴。ギターよりおよそオクターブ下の音まで出すことができます。もともとはメキシコのフォルクローレ（「マリアチ／Mariachi」）で用いられる楽器です。



▲ピアノ・弦楽器・合奏用ギター、各楽器の音域

ギターオーケストラの楽譜

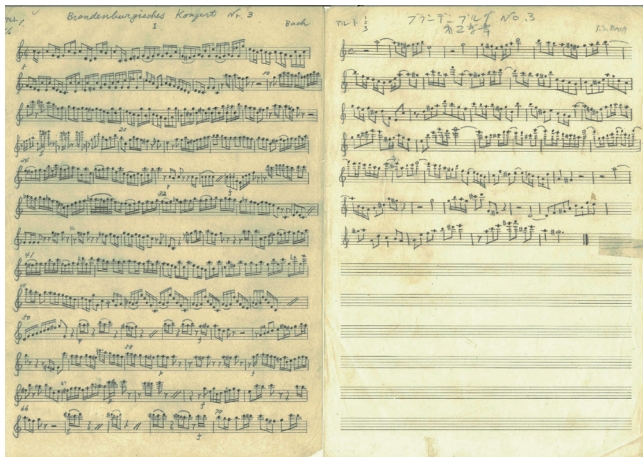
長崎ギターオーケストラで使用する楽譜は、実はそのほとんどが「自作」です。例えばクラシックの曲を弾こうにも、オーケストラ譜は通常のオーケストラのために書かれたもの。そのままギターでは使えません。もちろんギター用オーケストラ譜が出版されていることも殆どないです。なので、ギターオーケストラは「楽譜を自作する」ことから始まります。

以前は、団員が手分けしてスコア（オーケストラの全楽器のパートが書かれている楽譜）から各パートを抜き出しギター向けに書き写していた楽譜。今は、当時の楽譜を使うこともあります。主に山下院長が新たに編曲した楽譜を使っています。

オーケストラの魅力はなんといっても多彩な音色の交響。それをギターオーケストラでどう表現するのか。ギターの音色とさまざまな奏法を活かして、原曲のもつ迫力や表現の幅を創り出せるよう工夫しながらアレンジしていきます。各楽器はそれぞれ異なった特長を持っているので、

オーケストラの楽器の音符をそのまま移すだけでは効果は限られてしまいます。どうすればギターの特長を活かしながら、良い響きの効果を作り出せるのか。時には大胆にフレーズを変更したり、他のパートに振り分け直したりということも必要になってきます。

また、スコア（総譜。全てのパートが書かれている楽譜）とパート譜（あるパートだけが書かれている楽譜）の作成・管理はなかなか骨の折れる作業ですが、楽譜作成ソフトの発達により以前よりだいぶ効率的になりました。現在主流の「Sibelius」や「Finale」といった楽譜作成ソフトを使うと、タイプされた見やすい楽譜が作れるだけでなく、スコアから使いたいパートだけを抜き出したり、コピー＆ペーストしたり、移調したりということを僅かな操作ですることができます。その分、楽譜の変更や訂正もしやすくなり、よりフレキシブルなアレンジがしやすくなっています。



▲手書きの複写用原譜（バッハ：ブランデンブルク協奏曲）



▲楽譜作成ソフト「Sibelius」の作成画面

ギターオーケストラの編曲例～モーツァルト交響曲第40番 / 冒頭～

Allegro molto.

Guitar 1 Alto
Guitar 2 Alto
Guitar 3
Guitar 4
Guitar 5 Alto
Guitar 6 Alto
Guitar 7
Guitar 8 Bass
Guitar 9 Guitarron

▲ギターオーケストラバージョン

編曲のポイント

- ポイント1：伴奏の音型を、ギターで弾きやすいようにアレンジしています。
- ポイント2：ギターは音の伸びが少ないので、トレモロ奏法を使った背景音を追加しています。
- ポイント3：楽器ごとに記譜の高さが異なるので、音符の位置が変わります。

Allegro molto.

Oboi.
Clarinet in B.
Flauto.
Oboi.
Fagotti.
Corno in Bb.
Corno in G.
Violino I.
Violino II.
Viola.
Violoncello e Basso.

▲モーツァルトの原譜

【スコアの豆知識】

オーケストラのスコアは、上から順番に木管楽器→金管楽器→その他の楽器（打楽器やピアノ、ハープなど）→弦楽器の順番で書かれています。上例の楽譜では、上から順番にオーボエ、クラリネット、フルート、オーボエ2、ファゴット、ホルン1、ホルン2、バイオリン、バイオリン2、ヴィオラ、チェロ&コントラバスのパートになっています。指揮をする際は、弦楽器のパートを中心にしながら他の楽器も見えていくことが多いです。

第1回音楽と平和のパッチワーク展



「第1回音楽と平和のパッチワーク展」が、長崎市内の松ヶ枝埠頭に近いピースミュージアムが、8月17日～9月5日のおよそ3週間にわたって開催されました。

「ピースミュージアム」は平和への強い願いをこめて、歌手、さだまさしさんの提唱で開館したミュージアムですが、今回、作曲を通して自己と他者との相互理解が深まり、ひいては平和の礎となることを願う光鶴先生の想いが一致した展示会となりました。音楽とミュージアムがどう結び合うのかと思っていましたが、光鶴先生の若々しい発想力は、作曲した作品の手書きの楽譜や作曲者のコメント、作品にちなんだイラスト、絵画などを展示するとともに、その音楽も一緒に展示するという素晴らしい企画を編み出しました。詳しい内容などは音楽院のホームページで確認できますので割愛させていただくとして、ここでは実際に会場で私が体感し、特に印象に残ったいくつかの作品についての感想を述べさせていただきます。

▶第一に、子供達の作品の数々に心を奪われました。素直な感覚、感情をメロディーと詞（ことば）にして、いとも簡単に作り上げる能力は大人たちには真似のできない事かも知れません。どの曲を聴いても楽しくなるものばかりでした。イラストもなかなかかわいらしいものが多くありました。それに加えて、自作の曲を自分で演奏したり、歌ったりとなかなかの活躍ぶり、これからの創作が楽しみです。



▲今回のプロジェクトに最年少で参加した山田海翔くん（小学年）自作曲を録音中

▶大人たちの作品に添えられたコメントには、異口同音に「自分が作曲なんて出来るとはこれまで思ってもいなかった」とか「光鶴先生の導きやアドバイスを沿って音符を並べているうちに自分の曲が出来ていました」といった言葉が多くみられました。これまで作曲なんて縁がないものの、難しいものと思い込んでいたのが、実は音楽を学んだり楽しんでいるうちに簡単に出来るということに気づかされたのでしょうか。普段はギター曲の演奏を目指して練習を重ねている中で、作曲という新たな能力を自分の内に再発見したともいえます。



▶特に注目すべきは岩永俊三さんの作品群ではないかと思います。いわゆる「演歌」と呼ばれるジャンルに当てはまるような曲や、フォークソングに繋がるような曲が、長崎にちなんだ歌詞とともに心に重く響いてきます。それは、弾き語りで情感豊かに歌い上げる岩永さんの熱唱によるものなのかも知れません。感動する音楽にジャンルなど関係ないと思います。

▶中越裕子さんの作品には、じっくりと推敲を重ねたメロディーに、美しい歌詞が添えられていて、静かな熱情というものを感しました。また合奏曲の作曲という新たなチャレンジは中越さんの作曲への意気込みが感じられます。



▲自作の演歌「愛のかげら」を熱唱する岩永俊三さん

▶吉武裕子さんの「小さな手」は眠っている年長いた母親の小さくなった手に触れ、さまざまな思いがよぎってゆく様子がやさしいメロディーに乗って流れてきます。これを聞いていると、目の前にその情景が浮かんできそうです。

小さな手 2021年 6月

吉武 裕子

振った手のあなたの手 じっと手をあげ わめける
 焦 燥のうねるあなたの手 今 何 かに 生きている
 小さな手 あなたの手 しわをよんだ あなたの手
 時をよんだ あなたの 今 こゝに 生きている
 小さな ぬくもり あなたの いうまでも 忘れない

▲吉武裕子さん作曲の「小さな手」（抜粋）



▶松尾良子さんの「みちくさ」は懐かしいわらべ歌のようで、ほのぼのとした気持ちになりました。

▶浜口征洋さんの「はしふき」という作品。「はしふき」とは何ぞや？と思ったのですが、そういえば以前、数年前に新しく出来た「出島」へ渡る橋を仲間達と清掃するボランティア活動をしていると聞いたことがありました。その橋の欄干を拭きあげる作業のことを歌ったのだと気づきました。浜口さんの優しさが滲み出ているような作品です。

▶佐藤純子さんの作品の多くは、南米音楽をリスペクトしており、高度な演奏技術を駆使した曲作りはさすがと言うほかありません。それに、親心を歌った「長崎エアポート」は、親元を巣立ってゆく子供への愛情が十分に表現された、味わい深い一曲です。佐藤さんの普段演奏するクラシック曲からは想像出来ない、また新しい発見でした。

▶もう一人、今回の出展者では最高齢（年齢は不詳です）である荒木絢子さんの作品も心に残る作品のひとつです。今はすっかり大人になってしまった子供達、目を閉じると幼かった頃の懐かしい思い出と面影が、少しの寂しさとともに浮かんでくる。そんな情景が浮かんでくる作品だと思います。

たくさんの作品がある中、どれもがそれぞれの個性や特徴がよく現れていて、飽きることなく、印象深く鑑賞することが出来ました。そして、作曲という作品作りを通じて、子供達の音楽に対して大きく開かれた未来と、大人達のこれまで気づくことの無かった新たな自己の再発見につながったということが強く感じられました。

（みねとしのぶ）

ピースミュージアムでの展示は終了しましたが、左上図のQRコード、または以下のリンクから引き続き作品を視聴することができますので、ぜひアクセスしてみてください。

<https://www.nagasaki-guitar-academy.com/patchwork/>



〒850-0035

長崎県長崎市元船町 7-4 松永産業ビル 2 階

TEL: 095-823-2766

<https://www.nagasaki-guitar-academy.com/>

長崎ギター音楽院会報誌 Ludere

発行日：2021 年 9 月 25 日

発行：長崎ギター音楽院

STAFF

監修：山下光鶴

編集長：池浦恒信

編集・デザイン：内村村

